



魔眼羅王像 この王は美出尾のシンボル像で、5つの目を持った美出尾王である。そして、この王は琵琶を奏する音像一休の王で、密教界における映像の王である。以後おもしろおきを。

中島興の ビデオソフト学入門 17 ◎金的撮影法実践篇

——石的(イナリオ)人間のソフトウェア

第1回

「木・火・土・金・水」という五元素が、宇宙を構成するという古代中国の「五行説」によって、宇宙や人間を考え、そして「ビデオソフト作り」の方法論を探る、ビデオソフト学入門。今回は「金的撮影法」の第1回目。他力本願の石的人間のソフト制作法、イナリオ法について考察する。

イナリオ実践術

1

自分を殺し、目的にせまること

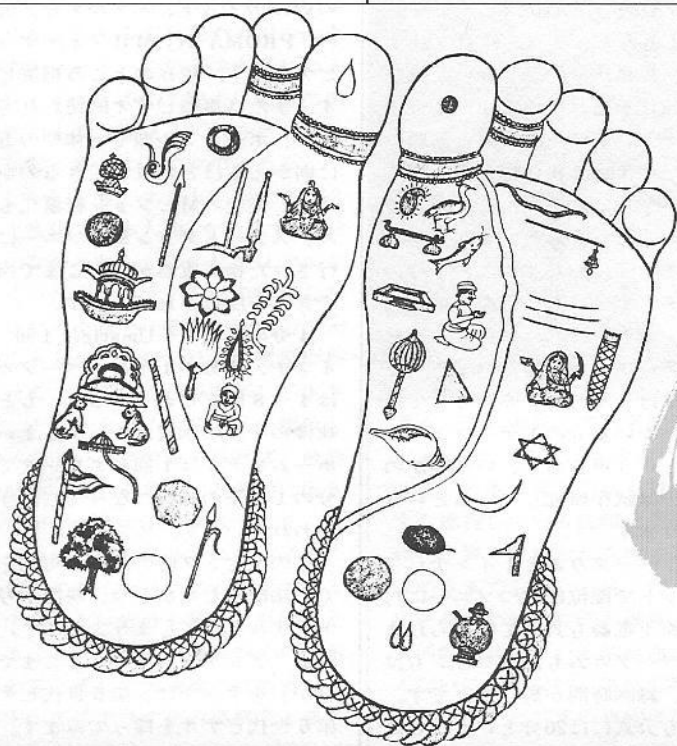
前回までの、ビデオを土的透視法でみた、ツナリオ法=土的ビデオへのアプロチ術はお分りになっただろうか？ ツナリオ法は表面にはなかなか顔を出さない。つまり水面下の思考法で、裏思考を意味

し、神秘で巨大な脳の内部の大宇宙空間が「ツナリオ(土成)法」のふるさとなのである。大宇宙から見ると地球の土は、さしずめ人間の「脳みそ」にあたり、その表面であくせくしているのが人間だとせば「脳

みそ=土」の衰弱がいかに重要な意味を持っているかお分りになるだろう。

土的人間=よくものごとを考え、論理づけた木に実行する人間は、とかく不可解に見えるが、それは裏の部分が見えないからである。そこで登場するのが、裏を持って表面に現われる「石と金(属)」。金属は石から生まれたきわめて硬い鉱物である。これらの金属・石は、すべて土のなかから生まれたものだということは語るまでもないだろう。つまり、土は石を生み出し、石は金(属)を生む。また、磨けば宝石に変化する石もある。変化と美の特性を持った人間がイナリオ法(石成法)の構築者である。このきわめてプライドが高く、熱くて攻撃的で形式的な思考法を持った破壊的構造主義者達が「イナリオ法(石成法または金成法)」を実践する。

攻撃と破壊は最大の防御。これがイナリオ法の哲理である。ヒナリオ法(火成法)と共通点があるように思われるが、まさしく石的金属的思考の感性を持った人間にとっては、火的人間は最良のパートナーと言えよう。なぜなら、石や金(属)は火



よって形を変えるように、火の存在は石や金によって重要な意味を持っているからである。

つまり、感性にイナリオ法を持った石の人間（または金の人間）は、考え方を土から習得して石となっている。石は選ばれ精錬されて金（属）となり、金は火によってみごとに形態を変える。刀・剣・槍・斧・銃を見れば明らかである。すなわち、イナリオ法の秘伝は、石や金（属）そのものとして存在するよりも、まったく違った形態となって存在することにより、イナリオ法の攻撃の美学、破壊の美意識もここに根ざしているのである。日本の大企業のサラリーマン兵士、思想を統一されたソ連邦の情況、毛沢東時代の中国——これらはイナリオ法の具現である。

「磨けば光る」という言葉があるが、とにかく理想を与え、教育をやり直し叩き直して使えるように改良すれば「たちまちのうちにエネルギーを発揮する」のがイナリオ人間である。

改良は破壊を意味し、過去の自分にすぐさま訣別をくだすのがイナリオ人間の特徴である。CIAやKGBのスパイなどは、すべてイナリオ人間で構成されているのではないだろうか。もちろん日本や米国の大企業のエコノミック兵士達の優れた人材は、イナリオ法で闘志に満ちた攻撃的な人間に改良され、ロボットと化したイナリオ人間なのである。

しかし、もし生き方の形をクルクルと変化できる人間（イナリオ人間）がいなかったら、この社会はどうなっていたのだろうか？ 何の特徴もないただの小石——その小石の山が大衆であるが、大衆は社会の情況に合わせて、巧みに自己を変革して生きる。それは大衆イナリオ法の極致と言ってよい。別の面を見れば、他者のために自分を殺して忍者的に生きるのがイナリオ法の極意であり、自分を自分らしく見せずにスパイ的に生きるのもイナリオ法の極意である。イナリオとは自分を殺し、目的にせまること。宗教の伝道者やその信者、革命家、そして大企業の技術者などはすべてイナリオ法の実践者と言え



よう。本誌編集部 の忍者記者諸君もむろん「ビデオ文化革命の兵士」であって、日本企業が国益を目的にひたすら進行している国際ビデオ文化革命の一翼になった兵隊であることは語るまでもない。良く言えば、文化革命のために自分を犠牲にして日夜活動を続けている革命運動家と言えないこともない。本誌も裏を返してみれば、ビデオの販売促進PR誌

だと言え言えるのである。それは筆者といえども同様だ。筆者がソフト学を書けば書くほどソフト作りに興味を持つ人が増え、興味を持つ人が増えればビデオが売れるという仕組みである。イナリオ法流に言えば、さしずめビデオ文化大革命の名のもとに自分の日常を殺して戦う新興宗教団体の伝道布教員——これが筆者の姿かもしれぬ。

全体より部分、ソフトよりハード

高田 喜心

次に石的人間の制作術を紹介する。

☆イナリオ法の秘伝

- 目的を持ち、他人につくせ（目的はひとつ）。
- すべての行動を、革命をしようと思ひ、他人につくせ。
- 自分を殺せ。自己を出さずに他人につくせ。
- 他人のために働け。自分のわけまは他人のもの。
- 他人の影響をまともを受けて、他人につくせ。
- 苦勞をいとわず他人につくせ。
- 他人のメシを食え。食わせてもらった他人につくせ。
- すべての時間を修業にあてろ。修業は他人につくすこと。

- ボス（上司）に従え。ボスこそつくす相手だ。
- 師を持て。師につくせ。
- つねにNo.2をめざせ。No.1につくせ。

☆イナリオ法のソフト秘伝

- 自分のためにビデオソフトを作るな。他人のためのみに作ること。
- 自分の主張を入れたビデオソフトを作るな。他人の主張のみを入れること。
- 編集だけにたずさわり、作品全体にたずさわるな。優れたビデオ編集マンになること。
- 撮影だけにたずさわり、作品全体に責任を持つな。優れたビデオカメラマンになること。

石

- 頼まれた仕事のみ全力をつくし、仕事全体に興味や責任を持つな。君の仕事は演出助手。
- つねにビデオチームの一員として全力をつくし、全員をまとめようとするな。撮影助手が君の仕事。
- つねに中間を守り、自分のポジションだけを守れ。撮影進行が君の仕事。
- 動きを止めると自分が見えなくなるので、つねに動け、動きながら考えると自分のポジショニングが見えてくる。動き撮り、走り撮りが君の撮影法。
- 相手の気持ちになって自分を見つめると自分が見えてくる。つねに他人を対象とした、他人のためのビデオソフト作りであること。

☆イナリオ法によって制作されるビデオソフト

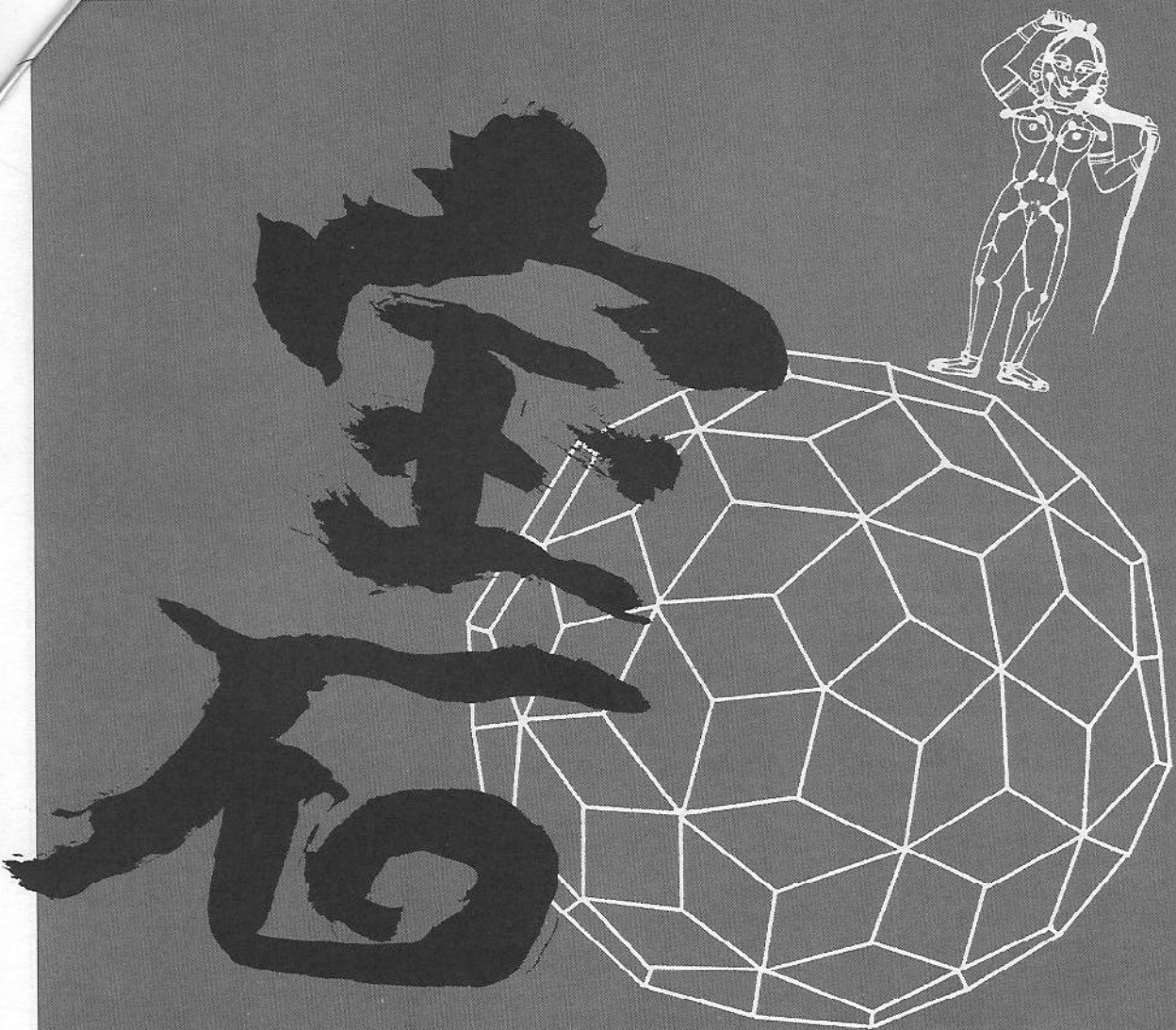
- 企業内機密ソフト
- 人工衛星利用のソフト
- 軍事戦略・戦術のソフト
- ハイテクノロジーの機密ソフト
- 医学秘密ソフト
- 国家の機密ソフト
- 政党内部の機密ソフト
- 革命プロパガンダのソフト
- スパイ暗号解読ソフト

☆石の特徴

- 石は磨けば光り、美しい。
- 石は硬い。
- 石は鋭い。
- 石は武器になる。
- 石は加工しやすい。
- 石は役に立つ。
- 石は自分が石であることに誇りを持っている。
- 石は変化・変革を求める（加工されることをいつも求めている）。

☆石の短所

- 石は硬いのもろい。
- 石は火に入れるとすぐはじけるように気が短い。
- 石はナイーブで繊細。しかし宝石のようにプライドが高すぎる。



- 性格が堅く、融通がきかない。そのわりには変わり身が速い。
- 加工されやすいので他人に利用されすぎる。
- 光っていたいと思うあまり、失敗も多い。
- 自分を宝石のように美しいと思うあまり、他人に自分をゆだねすぎる。

石的人間は、ビデオソフト作品よりもビデオ機材（ハードウェア）作りの名人である。ハードウェア作りに鋭い才能を発揮し、情熱をかたむけるのは、石的人間の特徴でもあるのだ。トランジスター、IC、そしてビデオハードウェア、すべて石的

人間が開発したものである。逆から言えば、石的人間は新しいハードウェアの開発に、最も適しているのである。

☆新しいビデオメカ作りの目標

- 産業用ビデオ機器の開発
- 特殊効果用ビデオエフェクト機器の開発
- 医学用ビデオ機器の研究
- ビデオとコンピューターのインターフェイス作りの研究
- 新システムのビデオ機器の開発
- VHS、ベータ、8ミリビデオの互換性をクリアしたインターフェイスの開発
- 新しいビデオヘッドの開発

☆イナリオ法による開発コンセプト

- 目標をつくる。
- タイムスケジュールをつくる。
- 人材をそろえる。
- 先輩を立てる。
- 資金プランを立てる。
- 開発のためのポジショニングを決め、部分を最初に固める。
- チームワーク重視で、個人プレイを避ける。
- 全体を見ないで部分を見る。
- 長期戦より短期戦。
- 予算をすべて使いきる。
- 開発が終了したら、スムーズにチームを解散する。
- すべて秘密主義。